

大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会について

ロジスティクス経営士
上村 多恵子

大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会について

- 2025年大阪・関西万博開催に向けた準備が本格化するなか、夢洲地区に流入する車両等が港湾物流に与える影響が懸念されていることを踏まえ、港湾関係者において現状・課題、周辺情報について情報交換・共有することを目的に、国際物流戦略チーム幹事会の下に「大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会」を設置。
- これまで、2019年12月に第1回、2021年2月に第2回を開催。第3回は、現時点における夢洲における物流交通対策等について情報交換を行ったほか、夢洲等を通過する交通（通過交通）への対応等について意見交換を行った。
- 国際物流戦略チームが今年度中に変更する予定の「今後の取組」に、今回の議論を反映する。

■ 構成員：

- ◎上村多恵子 ロジスティクス経営士
 - 梶谷 英樹 大阪港運協会 理事（業務部長）
 - 村木 亮一 夢洲コンテナターミナル株式会社 事業所長
 - 北畑 光一 株式会社辰巳商会 常務取締役（複合輸送本部長）
 - 滝口 敬介 一般社団法人大阪府トラック協会 専務理事
 - 友田 伸治 阪神国際港湾株式会社 常務執行役員
 - 神田 彰 公益社団法人関西経済連合会 理事・地域連携部長
- ◎：座長 ※敬称略・順不同

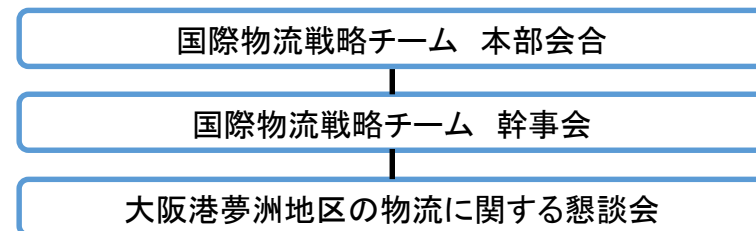
■ 第3回大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会の主な議事：

- CONPASの取り組み状況について近畿地方整備局より説明
- 夢洲における物流交通対策の進捗状況について大阪港湾局より説明
- 2025年日本国際博覧会 来場者輸送対策協議会の検討状況について日本国際博覧会協会より説明 等

■ 開催実績：

- 2019年12月2日 第1回開催
- 2021年2月8日 第2回開催
- 2022年1月20日 第3回開催

体制図



第3回会議（2022年1月20日）の状況



➤ CONPASについて

- ・ CONPASの導入によってインゲートでの処理スピードが向上するが、港湾物流の効率化のためには、ヤード内やアウトゲートでの処理スピードについても同時に考えないといけない。また、トレーラーのターミナル来場時間の平準化も重要。

➤ ターミナルゲート時間の延長

- ・ ターミナル事業者の労働環境等を考慮し、万博の開催期間中ずっと継続するのではなく効果的なタイミングで実施すべき。

➤ 大阪・関西万博における交通マネジメントについて

- ・ 一般交通に対するマネジメントについては、今後も引き続き関係者間で緊密な連携をとりつつ対策を検討・実施する必要がある。

➤ 今後の対応について

- ・ 通過交通等は夢洲以外からの影響が大きいため、夢洲の物流対策を考える上では夢洲・舞洲・咲洲を対象として拡大するべき。
- ・ 夢洲懇談会での議論は国際物流戦略チームの「今後の取組」へ反映する。

以下、参考

【参考】阪神港におけるCOMPASの導入

1. COMPASとは

COMPAS (Container Fast Pass) は、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ることでコンテナ物流の効率化及び生産性向上を実現することを目的として、国土交通省が開発したシステム。

2. COMPASの特徴

COMPAS導入前	COMPAS導入後
<ul style="list-style-type: none">ゲートでドライバーが持参した書類を確認し入場入場手続き後、新たに発行される書類によりトレーラーの行き先を指示手続き未了により搬出できないコンテナを誤って取りに来る事案も発生	<ul style="list-style-type: none">ゲートでドライバーが所有するPSカード(身分証)を読み取り入場入場手続き後、ドライバーの携帯端末にトレーラーの行き先を表示事前にコンテナの搬出可否を確認することにより、手続き未了のコンテナを誤って取りに来る事案を解消

3. 神戸港での第2回試験運用について

- 神戸港PC18にて、2021年3月の第1回に引き続き、2021年8月23日(月)～2021年9月3日(金)に第2回試験運用を実施。今回は初めて**営業コンテナを対象**として、輸入の実入りコンテナ搬出に係る試験運用を実施。**参加店社も第1回より大幅に拡大。**

	第1回試験運用	第2回試験運用
参加店社	3社	15社
予約本数	10本 (非営業コンテナ)	83本 (営業コンテナ)

- ①搬出予約制度、②貨物情報の事前確認、③PSカードの活用、④携帯端末による行先表示の各機能の運用を確認するとともに、②、③及び④の機能によるゲート処理効率化の効果を検証。

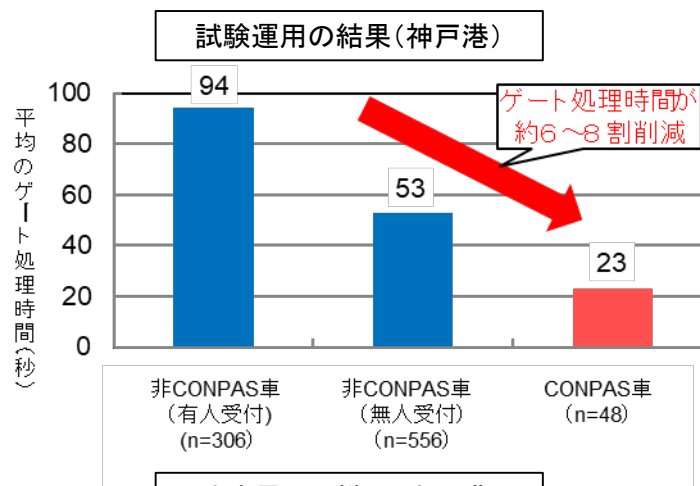
4. 神戸港での試験運用の結果

- ②、③及び④の機能によるゲート処理効率化の効果を検証した結果、COMPASを利用したトレーラー(COMPAS車)については、利用しないトレーラー(非COMPAS車)に比べて、1台あたりの**ゲート処理時間が約6～8割削減**される結果となった。

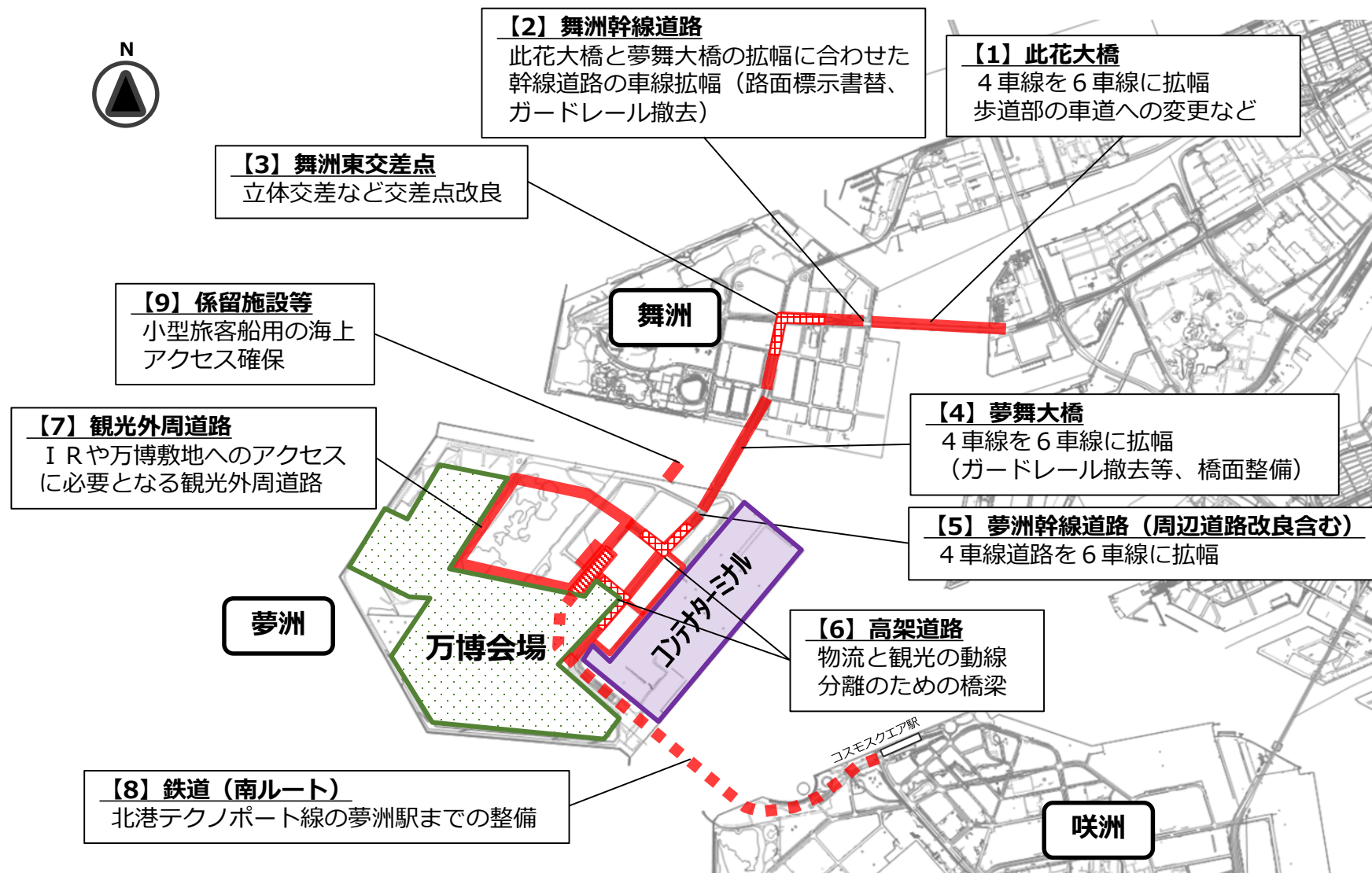
5. 大阪港での試験運用について

- 2022年1月27日(木)、28日(金)に大阪港DICTにて第1回試験運用を実施。営業コンテナを対象としたシステムフローについて一連の動作確認を実施。

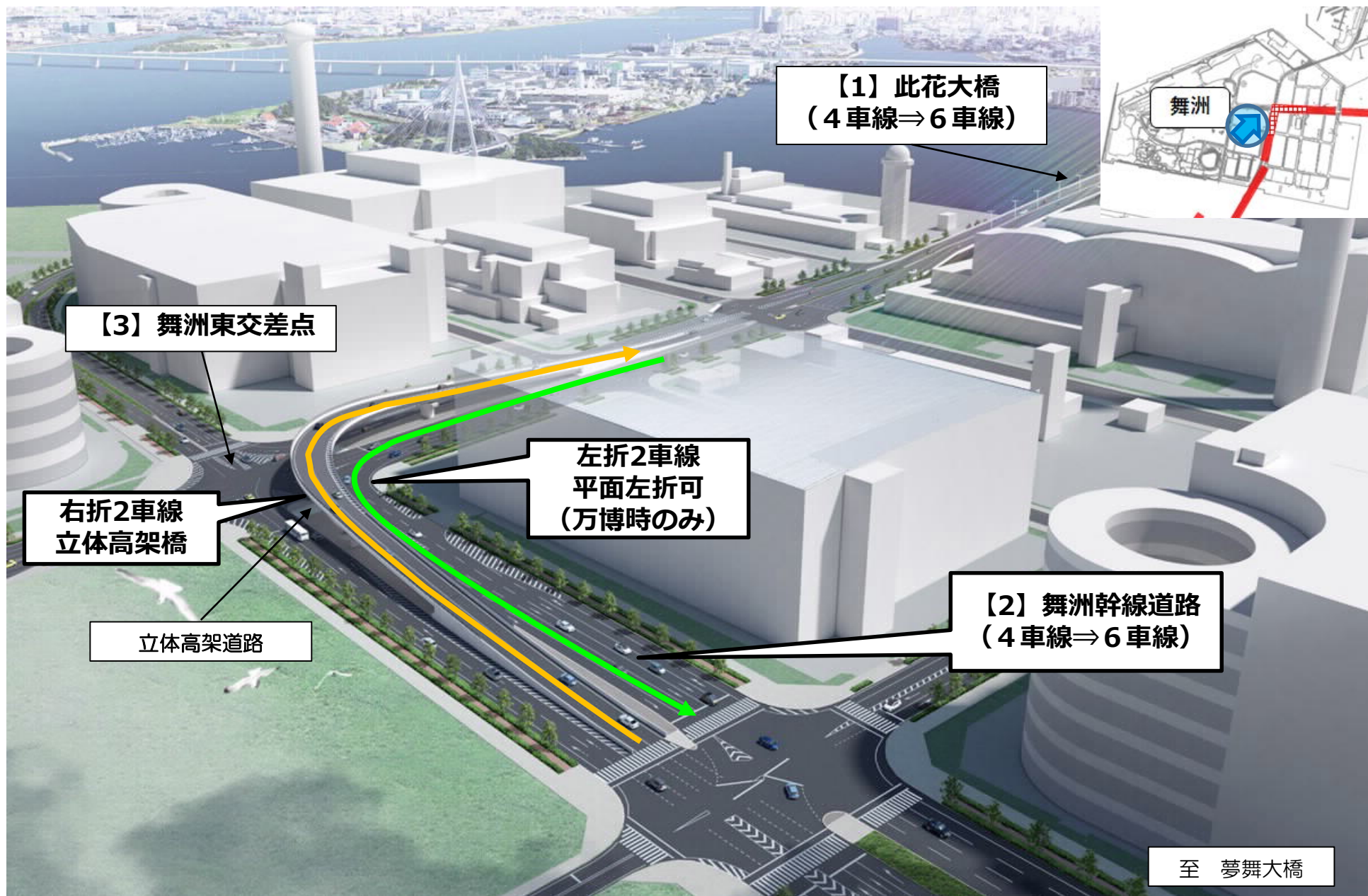
参加店社	8社
予約本数	14本 (営業コンテナ)



【参考】夢洲等における交通インフラ整備



【参考】舞洲イメージ鳥瞰図



至 夢舞大橋

【参考】夢洲イメージ鳥瞰図

